

## 令和5年度第2回 倫理審査委員会

令和5年6月19日

受付番号 5-4

申請者	病棟看護師	阿久津 友紀乃
課題名	側弯症患者に対する手術前後の不安軽減への取り組み	
研究の概要	<p>先行研究では、高齢になるにつれて手術に対する不安が強くなりやすい傾向にあるとされている。</p> <p>また、老年期には、健康・経済基盤・人間関係の3つの喪失が起こりやすく、自ら無力化していく状態を振り返った時に自信を喪失し、抑うつ感が生じやすいことから高齢になるにつれて不安を強く持ちやすくなると考えられる。</p> <p>今回、側弯症患者による成人後に対する手術は侵襲が大きいいため、手術前から不安の軽減に努め、手術後の積極的な疼痛コントロールや早期離床、退院指導が必要である。患者自身が手術前後の経過を把握していないこと、手術後疼痛が軽減しないこと、早期離床が進まないこと、退院後の生活のイメージがつかないことなどが連鎖することにより、不安が増強すると考えられる。不安の連鎖を食い止めるためには手術前後の経過・留意点の理解や、手術後の疼痛コントロール、早期離床への支援などの不安を軽減するための看護介入が重要となる。</p> <p>そして、離床や退院支援を進めていくためには、医師や看護師だけでなく理学療法士や薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカーなどのメディカルとの連携が必要である。</p> <p>看護師は24時間患者のそばにいるため、日常生活の様子や不安なことなどに他職種と連携して介入する上で、大切な役割を担うことになることによって、より質の高い看護の提供につなげる。</p>	
判定	承認	